

紙飛行機

沖縄県立糸満高等学校 三年 島 袋 きらら

少し照りつける
太陽に包まれながら

大きく深呼吸をする

優しく吹く風

ほのかに揺れるハイビスカスが

自然と心を穏やかにしてくれる

こうして始まる一日

私たちは

地平線のように

どこまでも続くこの道を

大空に浮かぶ白い雲と共に

一歩 一歩 歩んでいる

家族からの愛

友の笑顔に

包まれながら

明るい未来に向かって

歩んでいると

ふと空から紙飛行機が

風にのって

手のひらに舞い降りてきた

今を生きる私たちへ

大切なメッセーシを

伝えるために

七十一年前から

やってきた紙飛行機

この紙飛行機には

たくさんの人々の

強い想いが込められている

平和に過ごしていることが

当たり前のことすぎて

一日 一日を

何気なく過ごす毎日

そんな中私たちは

平和である幸せを

ぼんやりと忘れてしまっている

そんな私たちに

きっと平和である幸せを

気づいてほしいという願いから

この想いをはこぶ紙飛行機は
舞い降りてきたのだろう

七十一年前

ある一人の少女は

未来の自分宛に手紙を書いた

いつか逢うときには

楽しかったこと

たくさん幸せを

胸に抱き

笑顔で過ごしている

私に逢えますように と

昼も夜も

生きること一杯で

日々増してゆく

不安や恐怖を背負い

安心して寝ることさえも

出来なかったはずなのに

少女は明るく

純粋な気持ちで

言葉一つ一つに

想いを込めて

手紙をつづったのだ

今 あなたの心に

この紙飛行機に込められた

想いは届きましたか

きつとまた誰かの心に

この紙飛行機は

舞い降り

平和である幸せに

改めて気づくのです

そして今日も

少し照りつける

太陽に包まれながら

大きく深呼吸をし

一日が始まる